



目黒川を知ることができ、有意義だった防災まち歩き

～ハザードマップの見方・活かし方講座～

寒い小雪の舞う中、講師の伊藤久雄さん含む総勢10名で、中目黒駅から目黒川沿いを散策しました。



歩いてみて一番気になったことは、危険水位警戒水位の表示が日の出橋にしかない（水位計はいくつかあった）ことです。実際に水位があがってきても判断をする目安がないということで、今後水位計だけの箇所にも設置をして欲しいです。

また、自分の住んでいる場所の歴史や高低差などを知ることが、豪雨の時の対策に必要だということが分かりました。地形と危険度を知ることで、早めに土のうを準備する、早めに避難をする、といった対策が考えられます。都心では思いもよらなかったが、目黒区にも家屋倒壊等氾濫想定区域、土砂災害警戒区域があることを初めて知りました。付近の方は、こういった区域があることは知っておく必要があるでしょう。

散策後に会議室にて、より詳しくお話をお聞きし、感想や体験などを出し合い、特に実際の災害発生時の避難について話題になりました。

水害の場合は、避難所への避難以外に、上

右岸・日の出橋↓紅葉橋で蛇崩川と目黒川の合流地点を確認↓船入場で調節池の見学。
左岸・田楽橋から池尻大橋方面へ↓土のう置き場や防災無線のスピーカー、危険水位の表示や地形を確認↓柳橋↓近くの会議室で座学。

に避難する「垂直避難」が可能です。集合住宅の場合、住民の協力や地域との連携が必要になることが重要だとわかりました。

昨年の台風19号では目黒区のホームページにアクセスできず困ったこと、防災無線が聞き取れなかったこと、避難をするタイミングが判断しきれないこと、避難所のプライバシーを考えると避難を躊躇したことなどが話題になりました。

災害時の情報提供の仕方は全国的な課題だということ、目黒川を歩いて水位計や川沿いにある警告表示板などは汚れを取り読みやすく、わかりやすくしておくことなど、たくさん気づきがありました。

ハザードマップを広く区民に知っていたために、説明会を行政に求めた方がよいと思いました。
(小野崎 美和子)



下流に一箇所しかない水位表示、上流にもあったらいいと思います。

2020年度予算要望提出 2019年10月21日(月)

来年度へ向けた予算要望書を「子育て」「環境」「ジェンダー」「教育」「8050問題」の5点についてまとめ、区へ提出しました。

区長との懇談では、環境問題とコミュニティづくりを話題にし、目黒川のおい対策や洪水対策にもなる雨水利用、「香害」対策などについて意見交換しました。

強い香りが人によっては害となる「香害」対策については、生活者ネットワークが区立小中学校に対し「香害対策についてのアンケート」を実施し回答を得ていることから、学校現場に周知が進んでいくことを期待しています。

「8050問題」については、区としても相談窓口を設け、まずは問題を確認するところから取り組みたいというお話でした。

10月は目黒区でも台風の被害が大きく、多数の区民の方

が避難所へ避難をしたことから、避難所設営には男性視点だけでなく必ず女性視点を加え考えることが重要であると、ジェンダーの観点から強調してきました。

そして「子育て」では最近の高温傾向・猛暑日発生から公園内じゃぶじゃぶ池の利用を7月上旬～8月末までから7月上旬～9月末へと延長することなどを盛り込み、状況に応じた対応を求めました。また区立児童館の備品の和太鼓で、皮が緩んでいたり、穴があいていたり、胴が削れて傷んでいるものがあるという調査をもとに必要な修理を求めました。

※「香害」については裏面のポスターもご参照ください。

